

院内全職員の急変時 対応力向上の取り組み

半田市立半田病院

○佐藤チエ子・竹中利美・秋田とめ子
村瀬美恵子・渡邊和彦・石田義博

半田市立半田病院

- ◆病床数 : 499床
- ◆救命・救急センター(3次救急)
- ◆災害拠点病院
(地域中核災害医療センター)
- ◆臨床研修指定病院
- ◆病院機能評価認定病院
- ◆DPC対象病院

職員数 770名

◆医師	132
◆看護師	464
◆薬剤師	18
◆臨床検査技師	30
◆事務職	45
◆看護助手	25
◆理学療法士	11

その他	23
言語療法士	
心理士	
視能訓練士	
歯科衛生士	
臨床工学技士	
栄養士	
医療相談員	

急変時の対応について

- ◆リスクマネージャー会グループで検討
- ◆院内で急変時対応について、理解していない部署がある？
- ◆直接医療行為をしない部署は、関係ないという認識がある？
- ◆AEDがあっても使えない？

監査形式で聞き取り調査

- ◆院内11部門
- ◆薬剤科、放射線科、臨床検査科
- ◆外来看護課
- ◆リハビリ、栄養科
- ◆事務、業務施設
- ◆警備員、売店、外来食堂

現 状 分 析

- ◆医療安全マニュアルを食堂、売店、警備は見たことがない。
- ◆BLS講習を受講する機会が少ない。
- ◆AEDは使用する自信がない。使用方法がわからない。
- ◆緊急コールはどうすればよいか、とっさに判断できない。全く知らない。

目 標

- ◆急変・救急の対応をコメディカル部門に理解してもらう。
- ◆緊急時の自分の役割を理解し、行動が取れる。
- ◆BLSの必要性がわかる

警備員、売店、外来食堂

◆医療安全対策マニュアルを配布
緊急時の対応は
どこにあるのかを説明

◆売店、食堂の職員は
BLS講習会に参加した人なし

緊急時連絡カード

名札の裏に入れた

緊急時の連絡

日勤帯 → 「 9 」 電話交換室

休日・時間外 → 「1141」「1142」入退院事務室

(急変)99番コードブルー〇〇場所おねがいします。

(暴力)99番コードホワイト〇〇場所おねがいします。

緊急時の対応

- ◆ A3サイズに緊急時の行動が取れるように行動指示を表記
- ◆ 第1発見者の行動ルートを表記
- ◆ 救急蘇生器具の院内設置場所表記

院内全部署に掲示

— 緊急時の対応 —

医療安全管理委員会

(平成15年8月1日作成)

(平成21年2月1日改訂)

(平成22年11月1日改訂)

患者の急変を発見した職員は、

- 救命のための応援を求める。
 - ナースコール（スタッフコール）
またはPHSで人を呼ぶ。
 - 大声で人を呼ぶ。
- 患者のそばを離れない。
- 状態を観察し、必要な処置を直ちに開始する。

第一発見者から応援を

求められた職員は、

- その場にいる医師にすぐ報告する。
(夜間はすぐ当直医に連絡)
- 報告を受けた医師は直ちに対応する。
- 他の看護師たちに患者の急変を伝え、
応援を指示する。(救急カート)
- 主治医（主科医師）に連絡する。

多数の応援(医師・看護師)が

必要と判断した場合は、

救急放送の依頼

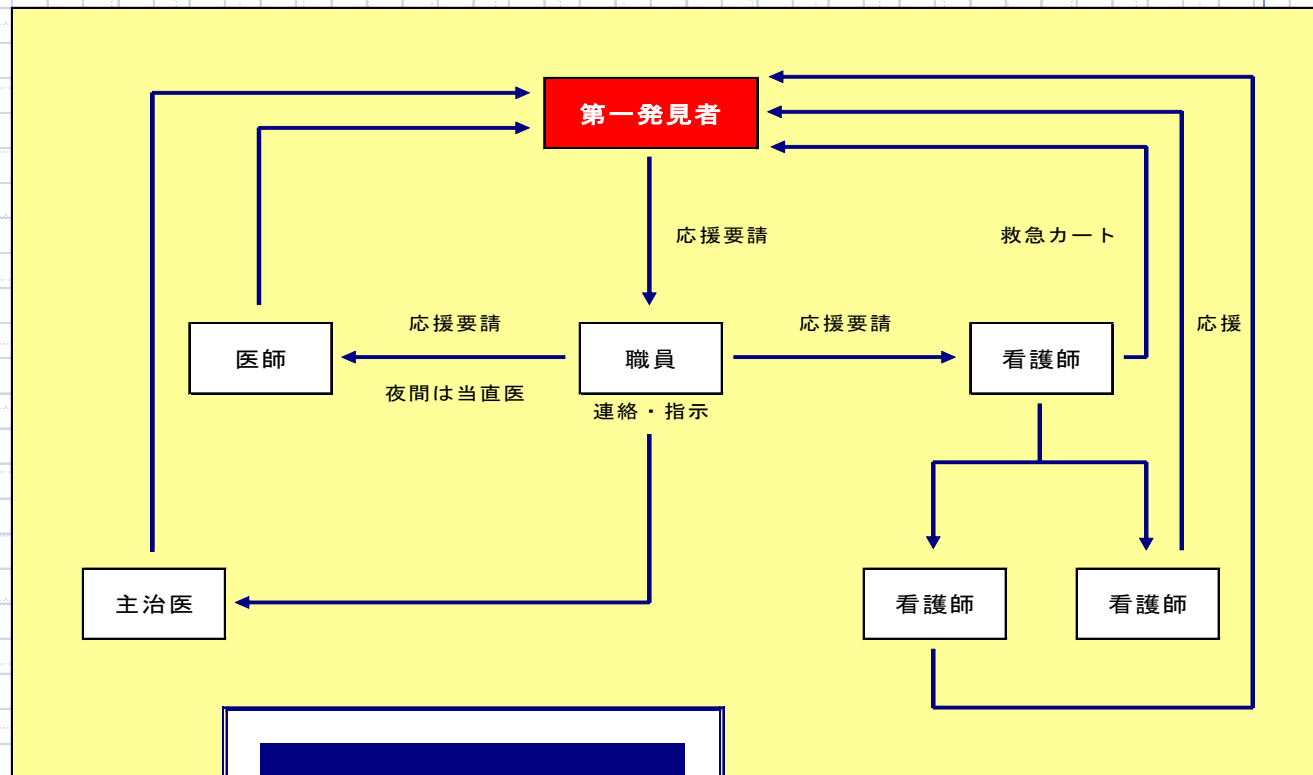
「99番 コードブルー〇〇病棟お願いします。」

暴言・暴力への応援依頼 (防犯マニュアル参照)

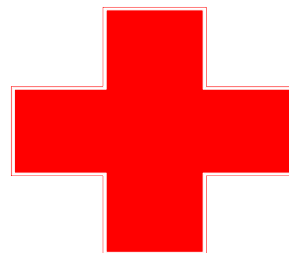
「99番 コードホワイト〇〇病棟お願いします。」

平日時間内 交換台 (9)

時間外 入退院事務室 (1141)

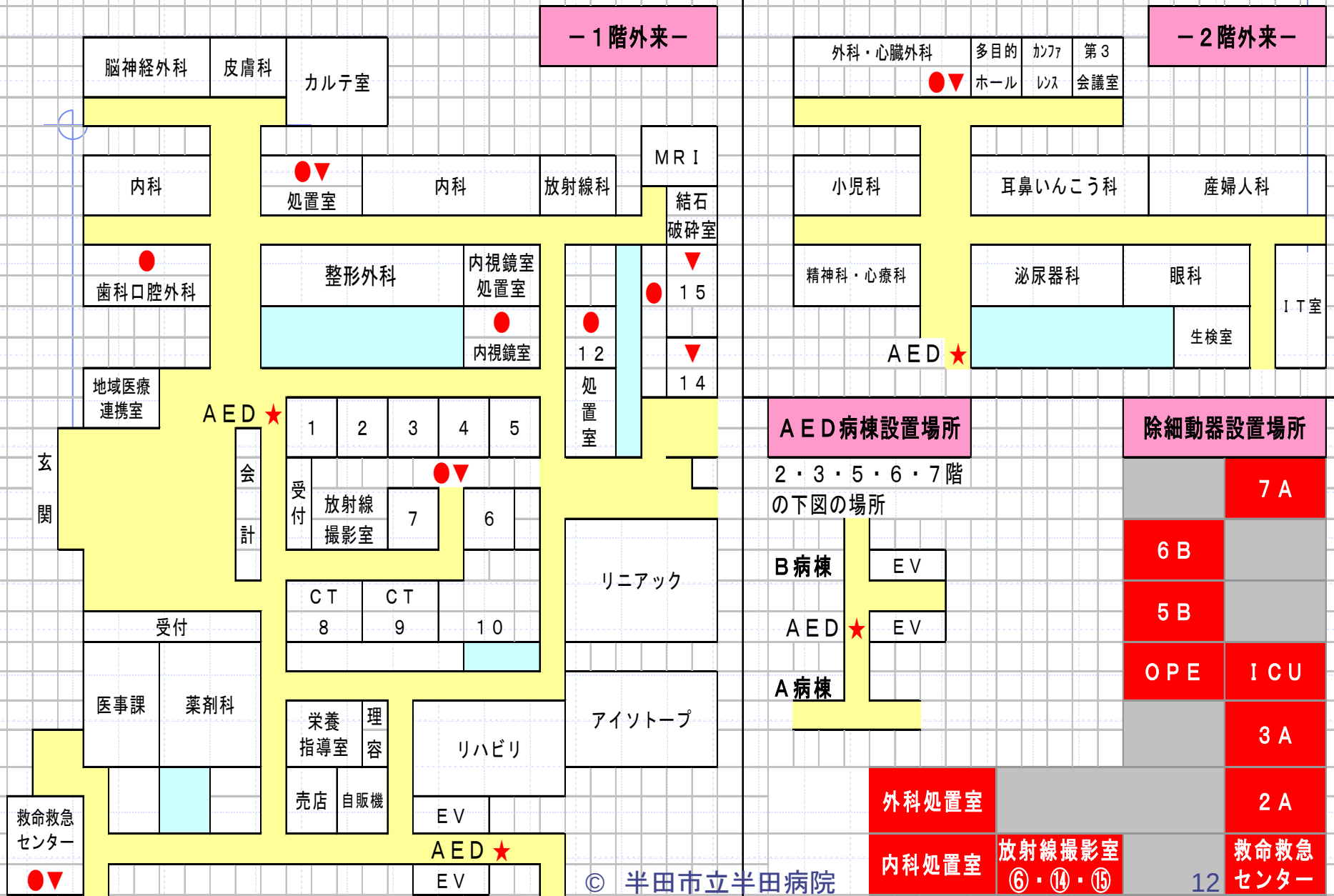


救急蘇生器具設置場所



救急救命処置が可能な設備を有する場所

● 印＝救急カート、▼ 印＝除細動器、★ 印＝AED



外科処置室

内科処置室

放射線撮影室
⑥・⑭・⑮

12

救命救急
センター

AED説明会

- ◆2回実施で 30名参加
- ◆AEDでイメージトレーニング演習
- ◆心臓マッサージのやり方
胸骨圧迫方法(人形モデル)
- ◆反応 BLS講習会に参加したい
とても役に立った

4カ月後の聞き取り調査

- ◆全職員がネームの裏、又は、手帳に挟んで身につけていた。
- ◆コードブルーとコードホワイトの区別がついた。
- ◆カードを携帯しているので安心できる。
- ◆「緊急時の対応」 掲示で
急変時のAED、救急カートの位置
除細動器の場所が明確になった。

99番コードブルー事例

患者が栄養指導室で痙攣発作を起こし99コールがかかった。

栄養士は患者を支えながら、緊急時連絡カードを見て、適切に99番コードブルーができた。

救急カートを搬送する職員、ストレッチャーを搬送して駆けつける職員の役割認識
事務員は廊下の人通りの整理ができた。

ま と め

- ◆ シュミレーションで、BLSの必要性が理解できた。
- ◆ コードブルー・コードホワイトの区別ができた。
- ◆ カード配布・緊急時の対応掲示で、緊急時の対応に安心感ができた。
- ◆ 緊急時の対応に対する、必要性の認識が高まった。

今後の課題

◆院内に従事する職員全てが、ACLS/BLS講習会に参加することは難しい現状がある。

コメディカル部門の職員には、急変時対応の行動がとれるようになるまで、AEDシュミレーション形式の説明会を継続的に行なっていくことが必要と考える。